

## 「思いはベクトルのよう」

県立神戸高等学校長  
新谷 浩一

### ○ 気になる数字もあるのです

先日、かねてより親しくさせていただいている校長先生から声を掛けられます。「すごいやん。神戸高校の希望者。今年はだいぶ増えたやんか…」と。でも、私はとぼけた顔をしました。無邪気に喜ぶには、何処か気恥ずかしい気持ちがあったのです。いみじくも県教委が県内の中学3年生を対象として調査した、進学希望者数の動向調査結果が発表された直後のこと。生徒の皆さんもかつては調査される側でしたよね。

多くの県立高校関係者にとって、今もっとも気になることのひとつは、来年度から始まる私立高校の学費無償化が公立高校にどのような影響を及ぼすかということです。正直に言って施設・設備面において公立高校はかなり劣っているのが現状です。歴史と伝統を感じさせる本校の校舎も老朽化が進みつつあること、あちこちの空調が度々故障したこの夏に、私たちは嫌というほど痛感したところですね。

大きな話からすると、昨秋、県内の国公立中学校の3年生は43,060人で、そのうち県内の公立高校を進学希望していたのは全体の79%の約3万4千人でした。当然このなかに今の80回生も含まれています。では、今秋は…と言うと、中学校3年生の総数は43,167人。そのなかで公立高校を希望しているのは76.6%の約3万3千人。おおよそ1,000人ほど減少しています。なかなか厳しい現実です。

それでも、神戸高校の数字を見ると総合理学科希望者こそ昨年度103人から94人と微減しましたが、普通科希望者は326人から396人へと大幅増の結果となりました。オープンハイスクール等に積極的に関わり、『神高生たるもの』という姿を見せつけてくれた自治会をはじめとする生徒の皆さんに先ずは感謝です。

加えて、日頃から部活動や探究活動で活躍している人、バスの中でお年寄りに席を譲ってくれている人、校舎内に落ちているゴミをずっと拾ってくれる人、落ち込んでいる友達を励ましてくれる人、すれ違うたびに明るく挨拶をしてくれる人、そんなひとりひとりの日常が繋がっての評価がこれじゃないですかね。自分たちの価値を高めるのも貶めるのも自分たち、それこそが『自重自治』の精神です。

そんな皆さんを日々、支えてくれる先生方に加え、他にも感謝したい方々が私にはいます。

3泊4日の修学旅行から帰神したのは土曜の夜。溜まっている仕事が気になった私が翌朝、校長室に入ると少し違和感があります。やたらと室内がきれいなのです。実は私が不在にしている間、校務員の坂口さんは窓硝子や網戸を掃除してくれていました。カーテンまで洗ってくれました。校務員の富岡さんは片付けの苦手な私の机まわりをきれいに整頓してくれていました。思い返せばいくつか空調が故障した上にブレーカーまで落ちた夏の日、見事に復旧させてくれたのは事務員の吉田さんです。多くの方々の協力で今の神戸高校は在ります。それが魅力として中学生に伝わっているなら嬉しいです。

有り難いことに私には様々な方から講演依頼があります。その度にパワーポイントを作って出掛けるのですが、過日の依頼はこれまで私が経験したことのない類のものでした。お願いされたタイトルは『スクールマネジメントに事務職員が果たす役割』。お話しする相手は県立高校の事務室で働いておられる方々です。仕事柄、学校の先生方や教育委員会の方々に話す機会はありませんでしたが、事務室の方々にお話しするのは初めて。何とか資料を仕上げたものの、前日になって最終ページを差し替えたくなくなりました。

そこで、お休みだった方には申し訳なかったのですが、その日におられた事務室の方々に急ぎ写真におさまってもらい、そこに感謝の言葉を添えたページを新たに作りました。我ながら爽やかなエンディングです。

思いはベクトルのようなもの。上向きのものがたくさん集まれば、どのように合成しても矢印は上にしか向きません。私は日々、感謝しています。

